

第1回ウェルビーイング推進本部会議



市長の思い

“蒲郡に関わる全ての人々が
ウェルビーイングを実感する
まちづくりの推進

冒頭市長（推進本部長）あいさつ

ウェルビーイングの推進については、健康軸に加えて幸福を軸として健康を高め、蒲郡に関わる全ての人々がウェルビーイングを実感するまちづくりの推進を盛り込むこととしております。市政運営の中でも特に力を入れている部分であり、しっかりと全庁的に進めてまいりたいと思っております。

そのためには、各部各課の政策の中に自主的にウェルビーイングの視点を盛り込んでいくことが大切です。お互い忌憚のないご意見を出してもらいブラッシュアップし、実現可能な政策として実施していただけたらと思います。

ウェルビーイング（Well-Being）とは

肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態のことです。

世界保健機構（WHO）憲章では“健康”とは、“病気ではないとか、弱っていないということではなく『ウェルビーイングな状態』にあること”と定義しております。



令和6年5月7日に実施された 第1回イネーブリングシティー WALKについて

・福祉部長

先日の WALK イベントの参加職員の声聞いた。SNS インスタグラムなどに普段から触れており unhappy よりも happy をたくさん上げやすい傾向にあるという感想を聞いている。

・ウェルビーイング推進監

happy&health の投稿が多かったが unhappy&unhealthy の投稿が多い通りもあった。unhappy を happy にしていく課題を抽出する活動も大切だが、一方で happy と評価されたところは人が集まりやすいところなので happy を周知・拡大していくという二つの方向性で取り組むことも大切だと話をしている



令和6年5月7日に実施した 蒲郡市職員によるイネーブリング・シティー WALK

5月7日(月曜日)に第1回のイネーブリング・シティー WALK を実施をしました。市職員 38 人が参加し、市役所を起点に北方向と南方向に分かれて、約 1 時間まちを歩き、373 件の投稿データを得ました。



・都市開発部長

都市開発部として立地適正化計画を作成している。名鉄や JR の駅中心に居住誘導地域を定め、まちづくりをすすめるという大きな計画があり、このことを踏まえると蒲郡駅を中心として WALK イベントをやってデータ収集いただくという案がある。また、well-being を感じる施設として公園はインパクトのある施設だと思う。

各部署における

ウェルビーイング推進について



・産業振興部長

健康推進課は健康の道をやっていて、教育委員会のスポーツ推進ではハイキングコースや登山道をやっている。観光分野でも、遊歩道や各温泉地域で持っている。そのようなコースを取りまとめている。そのコースを使って JR 東海と連携してさわやかウォーキングとして歩いてもあったことも過去あった。すでにウォーキングコースはいっぱいあり、そのようなコースを活用しながら市民に改めて歩いていただくという方法もある。季節ごとにどのコースが合っているのかという観光の観点も踏まえた上で、既存の手直しをしていかなければいけないところを見つけるといった様々な視点から検討できる。

・教育部長

長期的な話になるが、一度にすべては無理だが、(場所として) 学校の集団登校している通学路とか、安全面としては交通安全プログラム推進室と連携していろんなことをやっていただいている。そこを通学する時に楽しいのかどうか、学校に行きたい気持ちになるのかどうかといったところも含めながら検討したい。

・みなとみらい課長（建設次長）

（建設部長の代弁として）建設部の組織目標の一つとして、市民が自然と健康と幸福になれるまちづくりという事を掲げ、市民が自然と健康・幸福になるために建設部で所管する道路・河川・港湾や住宅施設に関してどんなことができるか、まずは検討するところから始めていきたい。



・総務部長

総務部は行政課長から庁舎内の階段を利用した well-being をやっていきたいと提案が上がっている。庁舎内の階段に、先日のイネーブリングWALKのイベント時に撮影した happy の写真等を掲載して、階段利用の促進につなげたい。

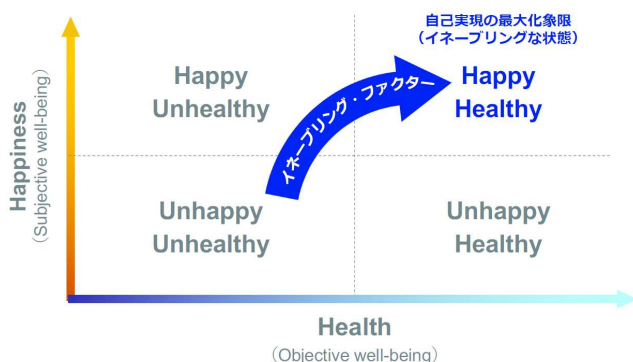
・市民病院事務局長

健康プラットフォーム事業の補助要件に well-being 指標を掲げている。令和5年度デジタル庁が実施した地域幸福度（well-being）のアンケートの中で公共空間・住居環境に合わせて、医療の場所も外せない大きな要因と思っている。職員の幸福度が患者さんへの診療サービス、医療の充実につながるという検討をしている大学機関や病院もある。蒲郡市民病院でも研究していきたいと思っている。

イネーブリング・シティの形成について

“イネーブリング・シティ”とは、市内にある様々な幸福や健康を高めるための要素（イネーブリングファクター）を、具現化・実装したまちで、暮らすだけで自ずとウェルビーイングを実感するまちです。

蒲郡市では、“蒲郡市に関わるすべての人が幸福を感じ健康に暮らせるまち”（＝ウェルビーイングなまち）となるために、横浜市立大学武部貴則先生の提唱する「イネーブリング・シティ」という新しい都市像を形成し、健康寿命の延伸と健康格差の縮小、誰一人取り残さない健康づくりに取り組んでまいります。



・企画部長

デジタル行政推進課ではアクロシティ B I という基幹系のデータを整理している。ウェルビーイング推進課でも詳細な地域ごとのデータ収取を考えていると聞いているので、データの活用という点で一緒にやりながら地域ごとにこういった課題が浮かび上がるのか、データから浮かび上がらせていくという事が出来たらと話している。

・健康推進監

前回のイネーブリングシティ WALK イベントの日は雨の後で、公園に入った時に靴が汚れた。景観が綺麗だったが unhappy だった。公園という場所は子育て世代の方や高齢者などが集まる場所で、公園に入る前の段差や、日差し除けの有無などの観点での happy・unhappy という調査は良いと思う。健康推進課として健康の道を 3 つのコースとして作っている（あさやけ、ゆうやけ、しおかぜ）最近このコースの周知もすくなく、歩いている方も少なくなっている。改めての周知も含め次回の WALK イベントの場所として検討していきたい。



・ボートレース事業部長

well-being の happy&healthy をファン目線で考えた場合、ボートレース事業ではファンへのアンケート調査をし来場者の満足度を測り施策を行っているが healthy については連動していないのが今後の課題。ボートレース事業とは別に地域貢献事業としてコミュニティーパークを整備している。今年度キッズパークがOPEN し、来年度にはコミュニティーパークが南駐車場にできる。地域貢献事業という事で healthy&happy の要素を取り入れた施策を展開できるのではと考えている。

イネーブリング・シティの形成 によって加速度的に良い方向に 変わっていく蒲郡

・市長（推進本部長）

積極的に意見をいただきありがとうございます。各部局が今後進めていくこと、また既に進めていることを話していただきました。ありがとうございます。今回が第 1 回の推進本部でございますが、イネーブリングの観点でそれぞれの部局が動き出すと、加速度的に蒲郡のまちは良い方向に変わっていくと期待するところです。まさにそれが目的で作った組織です。現状ではまだ市民の方からよくカタカナが多い、日本語にして欲しいと言われるが、これはこういうことなんだと示していきたい。

わかりやすい説明が今後必要になる。高齢者の方にも、子供の方にもわかりやすく説明できるように、しっかりと形をつくるということもお話いただきましたし、私だけでなく職員みんなでこの概念を説明できるようにしていきたい。

実施日：令和 6 年 5 月 13 日（月）